

# 第8回資源循環型施設検討委員会の協議内容について

資料 1 差替え

テーマ	委員区分	委員の意見要旨	第8回委員会での整理又は事務局回答
1 前回の協議結果について	学識	削除した「ダイオキシン類の発生と塩ビ投入量の相関」の記載について、事務局説明も誤解を招かない表現とすべきである。	・御指摘の表現を削除して、修正をいたします。
2 【協議結果1】 ごみ減量について	学識	生ごみの減量目標の数値を明確に記載すべきである。	○本委員会では具体的に生ごみ減量施策を議論していないため、数値を記載することはできない。
	学識	生ごみ減量は「生ごみリサイクル研究委員会」で議論しており、本委員会で具体的な議論していない。数値目標を掲げることは適当ではない。	
3 【協議結果3-3】 自主基準値について	学識	本委員会で行った自主基準値の数値等の議論もふまえて、協議結果に取り入れるべきである。	・協議結果の記載内容について修正し、協議をお願いいたします。
	学識	議論したプロセスについても、協議結果に記載すべきである。	
	住民	建設候補地として提案されているが、地元が受入れ合意をしていない現段階では具体的な検討は保留すべき、というのが住民の立場である。	
4 【協議結果3-2】 周辺環境の保全対策	学識	周辺環境への影響について、市民にわかりやすく具体的な項目を挙げるべきである。	・協議結果の記載内容について修正し、協議をお願いいたします。
5 【協議結果4-1】 エネルギー利用の 考え方	住民	発電について過大な量及び効率を目標とすることで、発電を目的としたごみ減量の停滞や外部燃料の投入につながるのではないかと懸念。	○発電等のエネルギーを地域活性化への活用ありきとすると本末転倒となる。事務局での整理を求める。
	学識	ごみ量・組成・発電効率・発電量などが不明の段階で、焼却エネルギーによる「地域活性化」を主眼とするのはおかしい。ごみの低炭素化処理及び資源とエネルギーの循環が目的となるべきであり、余力の利用となる。	・協議結果の記載内容について修正し、協議をお願いいたします。
	学識	資源循環型施設で、地域活性化に活用可能な発電能力の見積が必要である。	・現時点で見積は行っておりません。
6 【協議結果4-2】 災害対策の考え方	住民	「防災拠点としての機能」について、候補地近隣では水害の被災履歴があり、その機能が果たせない場合が想定されるが、どのように考えるか。	・今後、水害以外の地震等での活用、防災拠点の分散などの対応を整理いたします。
	住民	地域防災計画での位置付けはどうか。	・今後、災害の種類に応じて計画の中での役割を検討いたします。
	学識	上田市唯一の防災拠点となるとの誤解を招かない表現とすべきである。	○議論をふまえて、事務局での整理を求める。
	学識	エネルギー利用と同様に、施設の設備等が未定では防災に関しても踏み込んだ記載はできない。	
	学識	「災害廃棄物の処理が可能である」との表現は地域外からの大規模搬入への不安を与える。	
	学識	「可能である」との断言は、現時点では厳しいのではないかと懸念。「対応する」などが適当ではないかと懸念。	
学識	本委員会の協議で「防災拠点とすべきである」とのまとめは無理があり、見直すべきである。		
7 【協議結果】 今後に向けて	住民	「更なる話し合いを行っていく」等との記載があるが、住民の関心が高い地域振興も含めた協議を行う場を上手く組織して欲しい。	○議論をふまえて、事務局での整理を求める。
	学識	行政手続における専門家を交えた技術的・専門的な検討・協議と行政と地域住民との協議では目的が違う。今後は分けて協議をしていければ良い。	
	住民	建設候補地の地域特性をふまえ、施設建設の期間も考慮して市はダイナミックな地域振興策を考えるべきだ。	
	行政	地域価値の向上は地域と行政で共通の課題であり、組織を設置して検討していきたい。国の廃棄物処理施設整備計画でも地域貢献を明記しており、十分に認識している。	
住民	本委員会の協議事項となっているが、施設建設ありきで「まちづくり」に入り込みすぎると、委員会に参加していない諏訪部地区との溝が広がる。環境アセスメントの提起もふまえ、段階を踏んで住民意思を確認しながら議論を進めるべきである。		
8 その他	住民	行政が説明を省いて住民を説得しようとしても逆効果であり、難解でも大切なことはわかりやすく説明する努力が必要である。	・御意見をふまえて、協議結果を作成してまいります。

↑ 委員区分: 選出区分を表わす。住民=対策連絡会代表、学識=学識経験者、行政=広域連合・上田市職員

↑「○」は委員会での整理、「・」は事務局回答を表わす